

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第18回運営委員会議事次第

- 1 日 時：令和7年3月6日（木）11時00分～12時00分
- 2 場 所：オンライン（Zoom）
- 3 出席者：出席者名簿のとおり
- 4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

- (1) 株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズの入会について……………資料 1-1～1-2
- (2) コンソーシアム運営委員会委員について……………資料 2-1～2-2
- (3) 会長及び副会長の任期に関するコンソーシアム規約の改正について……………資料 3-1～3-2
- (4) 会長及び副会長の選出について……………資料 4
- (5) 令和7年度活動計画（案）について……………資料 5
- (6) コンソーシアムの日本ネットワークセキュリティ協会入会について……………資料 6
- (7) その他

【報告事項】

- (1) 第2回キャリアマッチングデーの開催について……………資料 7
- (2) 巨大災害研究会・R2EC 合同シンポジウム開催報告（R7.2.28）……………資料 8
- (3) 第30回幹事会開催報告（R7.2.10）……………資料 9
- (4) その他

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【審議事項】

- (1) その他

【報告事項】

- (1) 令和7年度協働大学院教員及び非常勤講師について……………資料 10-1～10-2
- (2) その他
 - ・学位プログラムオープンキャンパスの開催について（4月20日）
 - ・令和6年度修了者及び令和7年度入学予定者（コンソーシアム関係）について

（配付資料）

- 出席者名簿……………p.3
- 資料 1-1 株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズ正会員入会申込書……………p.4
- 資料 1-2 株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズ概要……………p.5

資料 2-1	コンソーシアム総会・運営委員会委員名簿（案）〔R7.3.6 版〕	p.6
資料 2-2	コンソーシアム総会・運営委員会陪席者名簿（案）〔R7.3.6 版〕	p.7
資料 3-1	会長及び副会長の任期に関するコンソーシアム規約の改正について	p.8
資料 3-2	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約（案）	p.9
資料 4	会長及び副会長の選出について	p.13
資料 5	令和 7 年度活動計画（案）	p.14
資料 6	コンソーシアムの日本ネットワークセキュリティ協会入会について	p.15
資料 7	第 2 回キャリアマッチングデーの開催について	p.16
資料 8	巨大災害研究会・R2EC 合同シンポジウム開催報告	p.17
資料 9	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第 30 回幹事会議事要旨	p.19
資料 10-1	令和 7 年度協働大学院教員一覧	p.21
資料 10-2	令和 7 年度非常勤講師一覧（コンソーシアム参画機関）	p.22

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第18回運営委員会 出席者名簿

(敬称略、網掛けは欠席)

機関	委員	出欠	委員代理	出欠	陪席者	出欠
セコム	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー 甘利 康文	出席			IS研究所 研究企画推進部 主務 小松原 康弘	出席
日本電気	セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員 柳生 智彦	出席				
東急プロパティマネジメント	BC推進センター センター長 狩矢 淳雅	欠席	BC推進センター 次長 松本 幸一	出席		
NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画部 部長 秋山 一也	欠席	レジリエント環境適応研究 プロジェクト 主任研究員 小山 晃	出席		
東京海上日動火災保険	アドバイザー 林 春男	出席				
東急総合研究所	エグゼクティブ・フェロー 真城 源学	出席			研究部 主任研究員 市村 健一	出席
DRIジャパン	理事長 長瀬 貫隆	出席			理事 真城 源学	出席
電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当 スタッフ 上席 星川 英	欠席	企画グループ 主任 舟橋 卓	出席		
日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員 安部 原也	出席				
電子航法研究所	特別研究主幹 福島 幸子	出席				
産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域 領域長補佐 兼務 エネルギー・環境領域 連携推進室 室長 玄地 裕	出席			エネルギー・環境領域研究企画室 企画主幹 横井 峻佑	出席
防災科学技術研究所	理事長 實 馨	出席			企画部 部長 松室 寛治	出席
					企画部 次長 松本 拓巳	出席
					研究共創推進本部研究推進室 係長 田代 麻耶	出席
労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長代理 山際 謙太	欠席	機械システム安全研究グループ 上席研究員 岡部 康平	出席		
國家災害防救科技中心 (NCDR) (台湾)	Secretary General Wei-Sen Li	出席				
筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長 遠藤 靖典	出席			システム情報エリア支援室 室長 大貫 康司	出席
					主幹 増田 正裕	出席
					大学院教務 係長 栗原 宏太	出席
					大学院教務 係員 酒井 美和	出席
					UEA 根本 美南	出席
	システム情報系 教授 リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー 岡島 敬一	出席				

オブザーバー

株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズ

代表取締役 小山 覚

研究開発部 研究開発担当 担当部長 橋本 明将

別紙様式1（第5条関係）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 正 会 員 入 会 申 込 書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業
に賛同しますので、入会を申し込みます。

令和 5 年 1 2 月 2 5 日

所在地 東京都千代田区大手町 2 - 3 - 1

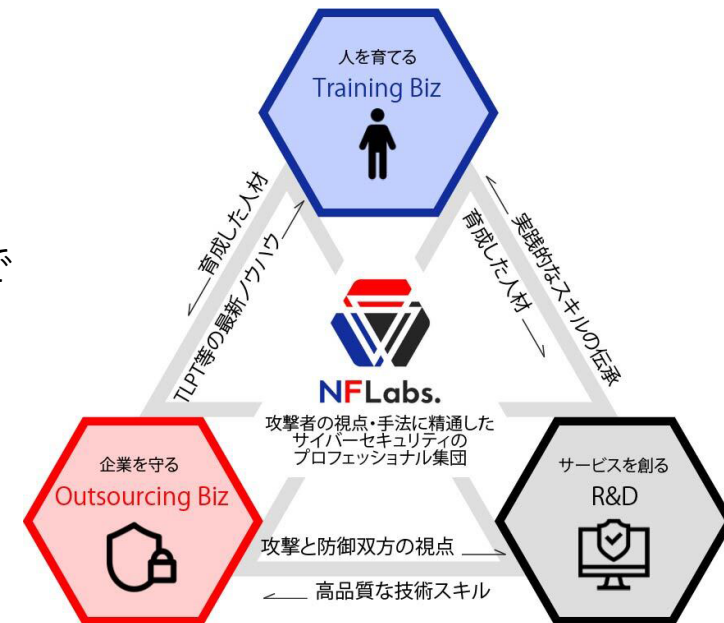
機関名 株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズ

代表者（自署又は公印） 代表取締役社長 小山 寛



- **会社名**：株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズ
- **所在地**：東京都千代田区大手町2-3-1 大手町プレイスウエストタワー26階
- **設立**：2019年01月16日
- **代表**：代表取締役社長 小山 覚 (SATORU KOYAMA)
- **資本金**：2億円 (資本準備金2億円)
- **株主**：NTTコミュニケーションズ株式会社 60%, 株式会社FFRIセキュリティ 40%
- **従業員数**：83名 (2024年7月)
- **事業内容**：

- Training Biz (トレーニングビジネス)
セキュリティエンジニアを育成する
- Outsourcing Biz (アウトソーシングビジネス)
育成した人材がオフenseチームの視点で
企業のお客様の防御力を高める活動を行う
- R&D (研究開発)
上記事業で得られたノウハウをもとに
新たなサービスを生み出して提供する



⇒ 3つの事業間の循環を回して、人と技術を向上

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会委員名簿（案）

氏 名	機 関 名	所属・職名	選出区分
甘利 康文	セコム株式会社	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
柳生 智彦	日本電気株式会社	セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
狩矢 淳雅	東急プロパティマネジメント株式 会社	B C推進センター センター長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
秋山 一也	NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画部 部長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
林 春男	東京海上日動火災保険株式会社	アドバイザー	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
真城 源学	株式会社東急総合研究所	エグゼクティブ・フェロー	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
小山 覚	株式会社エヌ・エフ・ラボラト リーズ	代表取締役	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
長瀬 貫隆	一般財団法人DRIジャパン	理事長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
星川 英	一般財団法人電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当スタッフ 上席	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
安部 原也	一般財団法人日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
福島 幸子	国立研究開発法人海上・港湾・航 空技術研究所 電子航法研究所	特別研究主幹	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
玄地 裕	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域 領域長補佐 兼務 エネルギー・環境領域連携推進室 室長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
◎ 寶 馨	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	理事長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
山際 謙太	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長代理	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
Wei-Sen Li	National Science and Technology Center for Disaster Reduction	Secretary General	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位 プログラムリーダー	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）

◎は議長を示す

（参考）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第8条第4項 総会は、次の委員で構成する。

- （1）正会員の代表者
- （2）その他、会長が指名する者

第9条第4項 運営委員会は、次の委員で構成する。

- （1）正会員の代表者
- （2）その他、会長が指名する者

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会陪席者名簿（案）

氏 名	機 関 名	所属・職名	選出区分
小松原 康弘	セコム株式会社	IS研究所 研究企画推進部 主務	陪席者
松本 幸一	東急プロパティマネジメント株式会社	BC推進センター 次長	陪席者
大野 洋一	東急プロパティマネジメント株式会社	BC推進センター 課長代理	陪席者
小山 晃	NTT宇宙環境エネルギー研究所	レジリエント環境適応研究プロジェクト 主任研究員	陪席者
柴崎 紘基	東京海上日動火災保険株式会社	dX推進部 BD室	陪席者
市村 健一	株式会社東急総合研究所	研究部 主任研究員	陪席者
橋本 明将	株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズ	研究開発部 研究開発担当 担当部長	陪席者
真城 源学	一般財団法人DRIジャパン	理事	陪席者
舟橋 卓	一般財団法人電力中央研究所	企画グループ 主任	陪席者
山本 博巳	一般財団法人電力中央研究所	グリッドイノベーション研究本部ENIC研究 部門 上席研究員	陪席者
頭士 泰之	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域研究企画室 企画主幹	陪席者
松室 寛治	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部 部長	陪席者
松本 拓巳	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部 次長	陪席者
倉谷 定秋	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部研究推進課 課長	陪席者
田代 麻耶	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部研究推進課 係長	陪席者
岡部 康平	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 上席研究員	陪席者
大貫 康司	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 室長	陪席者
増田 正裕	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 主幹	陪席者
栗原 宏太	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 大学院教務 係長	陪席者
酒井 美和	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 大学院教務 係員	陪席者
根本 美南	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 エデュケー ション・アドミニストレーター（UEA）	陪席者

会長及び副会長の任期に関するコンソーシアム規約の改正について

1. 背景と趣旨

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約において、会長及び副会長が任期中に欠けた場合の後任会長及び副会長の任期について、これまで明確な規定がなかった。

本改正では、会長が任期中に欠けた場合、後任会長及び副会長の任期を新たに開始する形に統一する。また、副会長が任期中に欠けた場合、後任副会長の任期を前任者の残任期間とすることを規約上明確化する。

2. 変更内容

以下のとおり、規約の該当条文の改正を提案するので、ご審議願いたい。なお、改正後の規約全文は、別紙のとおり。

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約 新旧対照表（案）

新	旧
（役員） 第7条 コンソーシアムに次の役員を置く。 （1）会長 （2）副会長 2名 2 会長は、正会員の中から互選により選出する。 3 副会長は、正会員の中から互選により選出する。 4 会長に事故があるときは、副会長のいずれかがその職務を代行する。 5 役員の任期は、原則2年とし、再任は妨げない。 <u>6 会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された会長の任期は、新たに開始するものとする。これに伴い、副会長の任期も新たに開始するものとする。</u> <u>7 副会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された副会長の任期は、前任者の残任期間とする。</u>	（役員） 第7条 コンソーシアムに次の役員を置く。 （1）会長 （2）副会長 2名 2 会長は、正会員の中から互選により選出する。 3 副会長は、正会員の中から互選により選出する。 4 会長に事故があるときは、副会長のいずれかがその職務を代行する。 5 役員の任期は、原則2年とし、再任は妨げない。

3. 改正に係るスケジュール

本改正規約は、第18回運営委員会において承認を得ることで正式に決定し、即日施行するものとする。

令和7年2月10日 第30回幹事会（審議）

令和7年3月6日 第18回運営委員会（審議）

（参考）令和6年度までのコンソーシア会長・副会長の体制

	H29.12.26 - R2.3.31 (2年3ヶ月)	R2.4.1 - R4.3.31 (2年)	R4.4.1 - R5.3.31 (1年)	R5.4.1 - R7.3.31 (2年)
会長	林 春男	林 春男	林 春男	寶 馨
副会長	甘利 康文	甘利 康文	甘利 康文	甘利 康文
副会長	清水 諭	遠藤 靖典	遠藤 靖典	遠藤 靖典

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約（案）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会
平成29年12月26日制定
平成30年 7月19日改正
令和 2年10月16日改正
令和 3年 6月 8日改正
令和 4年 3月 7日改正
令和 7年 3月 日改正

第1章 総則

（名称）

第1条 本コンソーシアムの名称は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）と称し、英語名を Resilience Research and Education Promotion Consortium（「R²EC」と略す。）とする。

（目的）

第2条 このコンソーシアムは、大学、研究機関、産業及び行政の連携・交流の促進を図るとともに、研究教育とその実用化を支援し、筑波大学とつくば市及び近郊地区の研究機関、企業等の連携により筑波大学に開設する協働大学院方式のリスク・レジリエンス工学学位プログラムを企画運営し、リスク・レジリエンス分野における日本ひいては世界の知と研究教育の核となる活動を支援することを目的とする。

（事業）

第3条 コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）総会を開催し、リスク・レジリエンスに係る活動の連絡調整を行う。
- （2）筑波大学に開設する協働大学院方式による学位プログラムへの参画団体、担当教員及び企画に関し調整を行う。
- （3）セミナー、講演会、研究会等を実施する。
- （4）コンソーシアムに関わる国内外の関連機関等との連携を推進し、必要に応じてシンポジウム等を開催又は共催する。
- （5）その他前条の目的を達成するための事業を適宜実施する。

第2章 会員

（会員）

第4条 コンソーシアムは、第2条の目的及び前条の事業を行うことに賛同する大学、研究機関、企業、団体、行政機関等（以下「研究機関等」という。）をもって構成し、会員の種別は、次のとおりとする。

- （1）正会員 前条の事業を行う研究機関等
 - （2）準会員 前条の事業の一部を行う研究機関等
- また、正会員・準会員（以下、「会員」という。）を別表により明記するものとする。

（入会・退会手続き）

第5条 入会を希望する研究機関等は、次の入会申込書をコンソーシアム会長あてに提出するものとする。

- (1) 正会員 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム正会員入会申込書（別紙様式1）
 - (2) 準会員 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム準会員入会申込書（別紙様式2）
- なお、退会の際は、別紙様式3により、会長あてに申し出るものとする。

（除名）

第6条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、除名することができる。

- (1) 本規約又は関連する定めに反したとき。
 - (2) 本コンソーシアムの名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をする等、会員としてふさわしくない行為をしたと認められるとき。
 - (3) その他、除名すべき正当な事由が認められるとき。
- 2 前項の規定により、会員を除名しようとするときは、当該会員に予め通知するとともに、弁明の機会を与えなければならない。

第3章 役員

（役員）

第7条 コンソーシアムに次の役員を置く。

- (1) 会長
 - (2) 副会長 2名
- 2 会長は、正会員の中から互選により選出する。
- 3 副会長は、正会員の中から互選により選出する。
- 4 会長に事故があるときは、副会長のいずれかがその職務を代行する。
- 5 役員の任期は、原則2年とし、再任は妨げない。
- 6 会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された会長の任期は、新たに開始するものとする。これに伴い、副会長の任期も新たに開始するものとする。
- 7 副会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された副会長の任期は、前任者の残任期間とする。

第4章 組織

（総会）

第8条 コンソーシアムの最高機関として、総会を置く。

- 2 総会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、総会の議長となる。
- 4 総会は、次の委員で構成する。
 - (1) 正会員の代表者
 - (2) その他、会長が指名する者
- 5 総会は、次の事項を審議し、決定する。
 - (1) 規約の改廃
 - (2) 会長及び副会長の選任
 - (3) 会員の入会又は退会、除名に関すること。
 - (4) 第3条に規定する事業の調整及び運営に関すること。
 - (5) その他、コンソーシアムの運営に関し必要なこと。
- 6 前項に掲げる事項の審議については、第9条に規定する運営委員会に付託することができるものとする。

（運営委員会）

第9条 第8条第6項の規定に基づき、総会の下に運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、会長がこれを招集する。

- 3 会長は、運営委員会の議長となる。
- 4 運営委員会は、次の委員で構成する。
 - (1) 正会員の代表者
 - (2) その他、会長が指名する者
- 5 運営委員会は、第8条第6項の規定に基づき、総会の付託を受けて、第8条第5項に掲げる事項について審議を行う。
- 6 前項に掲げる事項の第8条第5項(3)の準会員に関する事、(4)及び(5)に係る審議については、第10条に規定する幹事会に付託することができるものとする。

(幹事会)

第10条 第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の下に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、幹事会の議長となる。
- 4 幹事会は、次の委員で構成する。
 - (1) 会長
 - (2) 副会長 2名
 - (3) 正会員の中から互選により選出する委員 若干名
 - (4) リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー
 - (5) その他、会長が指名する者 若干名
- 5 幹事会は、第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の付託を受けて、第8条第5項(3)の準会員に関する事、(4)及び(5)に掲げる事項について審議を行う。

(代理出席)

- 第11条 第8条第4項に定める総会の構成員、第9条第4項に定める運営委員会の構成員及び第10条第4項に定める幹事会の構成員は、それぞれの規定にかかわらず、やむを得ない事由により総会、運営委員会又は幹事会に出席できない場合には、代理人を出席させることができる。
- 2 前項の規定により、代理人が総会、運営委員会又は幹事会に出席する場合は、代理人の行為を総会、運営委員会又は幹事会の構成員の行為とみなす。

(議決)

- 第12条 総会、運営委員会及び幹事会は、過半数の構成員が出席しなければ議事を開き、議決することができない。
- 2 総会、運営委員会及び幹事会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

- 第13条 総会、運営委員会及び幹事会は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与)

- 第14条 コンソーシアムは、筑波大学に開設する、協働大学院方式によるリスク・レジリエンス工学学位プログラムの運営母体となる。
- 2 リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与は、筑波大学が定める規則等に基づき行う。

(事務)

- 第15条 コンソーシアムに関する事務を処理するため、事務局を置く。
- 2 事務局は、筑波大学の関連部署の協力を得るものとする。

第5章 雑則

(報酬)

第16条 会長、副会長、幹事及びその他コンソーシアムの運営管理に関与する者は、無給とする。

(解散)

第17条 コンソーシアムの解散は、総会において出席者の過半数の同意をもって決するものとする。

(その他)

第18条 本規約に定めるものの他、コンソーシアムの管理運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、平成29年12月26日から施行する。

附 則

この規約は、平成30年7月19日から施行する。

附 則

この規約は、令和2年10月16日から施行する。

附 則

この規約は、令和3年6月8日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この規約は、令和4年3月7日から施行し、令和3年10月13日から適用する。

附 則

この規約は、令和7年3月 日から施行する。

令和7年3月6日

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

会長 寶 馨

会長及び副会長の選出について

現会長及び副会長の任期が令和7年3月31日をもって満了することに伴い、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約第7条第2項及び第3項に基づき、会長及び副会長の選出をお願いいたします。

役職名	人数	選出方法	任期
会長	1名	会長は、正会員の中から互選により選出する。 (レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 規約第7条第2項)	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日
副会長	2名	副会長は、正会員の中から互選により選出する。 (レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 規約第7条第3項)	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日

主たる活動

◆キャリアマッチングデー 6月5日(木) 対面(筑波大学) ※予備日: 6月19日(木)

◆シンポジウム

R2EC単独シンポジウム 11月 ハイブリッド

共同開催シンポジウム 3月 ハイブリッド

会議

◆総会

第8回総会&参画機関見学会 5月 対面(参画機関)

◆運営委員会

第19回運営委員会 11月 ハイブリッド ※シンポジウムと同日を予定

第20回運営委員会 3月 オンライン

◆幹事会

第31回幹事会 4月 オンライン

第32回幹事会 7月 オンライン

第33回幹事会 10月 オンライン

第34回幹事会 2月 オンライン

コンソーシアムの日本ネットワークセキュリティ協会入会について

レジリエンス研究教育推進コンソーシアムと NPO 日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）は、これまで相互にイベント開催時の後援協力等を行ってきた。

この度、JNSA 会員企業への情報発信等の連携強化を目的に、当コンソーシアムが JNSA の特別会員として入会することについて、ご審議願いたい。（入会予定日：令和 7 年 4 月 1 日）

1. 団体概要

名 称：特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）

所在地：〒105-0004 東京都港区新橋 5－7－1 2－4 F

会 長：江崎 浩（東京大学大学院情報理工学系研究科 教授）

会員数：296 社（2025 年 1 月現在）※うち、特別会員 27 社

目 的：ネットワーク社会の情報セキュリティレベルの維持・向上及び日本における情報セキュリティ意識の啓発に努めるとともに、最新の情報セキュリティ技術および情報セキュリティへの脅威に関する情報提供などを行うことで、情報化社会へ貢献する。

2. 特別会員の特徴（正会員との違い）

- ・総会議決権なし
- ・年会費なし
- ・正会員向けサービスの提供なし
- ・その他、会員としての義務はなし

- ・会員企業に対し、関連のありそうなイベント情報の配信が可能
- ・部会やワーキンググループへの参加希望があれば相談可能

【参考】特別会員 加入機関（大学）

- ・順天堂大学 健康データサイエンス学部
- ・東海大学情報通信学部
- ・東京大学大学院 工学系研究科
- ・長崎県立大学情報システム学部情報セキュリティ学科

令和 7 年 3 月 6 日

第 2 回キャリアマッチングデーについて

本コンソーシアムでは、令和 6 年度より、参画機関と筑波大学の優秀な学生のインターンシップや就職等のマッチング支援を目的としたイベント「キャリアマッチングデー」を開催している。（※第 1 回開催の様子はこちら：<https://r2ec.jp/news/2830/>）

この度、第 2 回の開催日程が決定したので、以下のとおり通知する。

【開催概要】

- ・主催：レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
- ・共催：筑波大学
- ・実施日程：**令和 7 年 6 月 5 日（木）13:00-16:00**
（※予備日：6 月 19 日（木）13:00-16:00）
- ・実施場所：筑波大学 筑波キャンパス内
- ・参加対象：（機関）コンソーシアム参画機関、及びその関連会社
（学生）システム情報工学研究群の学生を中心とした全大学院生、及び学類生

【今後のスケジュール】

- 3～4 月 ：参加機関募集
- 4 月 ：告知用ポスター作成
- 4～6 月 ：参加学生募集

2024 年度 巨大災害研究会・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム合同シンポジウム
「スマートシティと防災ーレジリエントな都市のデザイナー」開催報告

日 時：2025 年 2 月 28 日（金）14:00-16:30

場 所：関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8 階大ホール（大阪府大阪市）

形 式：原則対面（簡易オンライン配信あり）

主 催：巨大災害研究会、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

共 催：関西大学社会安全学部社会安全研究センター

報 告：

2 月 28 日に対面会場（大阪）とオンラインのハイブリッド形式で、巨大災害研究会とレジリエンス研究教育推進コンソーシアムの合同シンポジウムが開催された。本シンポジウムは、巨大災害研究会の全身となる Joint Seminar 減災との合同開催を含めると通算 5 回目の合同シンポジウムとなった。

今回は「スマートシティと防災」をテーマに、東日本大震災や令和 6 年能登半島地震後の対応状況にも触れながら、地域社会全体で災害に強いレジリエントな都市を目指すための具体的な姿について議論を深めるべく開催され、企業・大学・研究機関等から計 141 名（対面会場 65 名、オンライン 76 名）が参加し、盛況のうちに終了した。

◆ 開会挨拶

寶 馨 氏（レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長／防災科学技術研究所 理事長）



はじめに、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの寶会長より、ビデオメッセージによる開会挨拶をいただいた。

コンソーシアムの活動紹介及び本シンポジウムの開催趣旨の説明に続き、合同で主催する巨大災害研究会と、共催の関西大学社会安全学部社会安全研究センターへの謝意が述べられた。

◆ 基調講演「大学・国研連携型スーパーサイエンスシティの挑戦」

鈴木 健嗣 氏（筑波大学 システム情報系 教授／つくば市 顧問）



基調講演では、筑波大学教授の鈴木健嗣氏が登壇。つくば市が「スーパーシティ型国家戦略特区」に指定され、大学や国の研究機関・企業と協働しながら「スマートシティ」の実装を進めている経緯について説明があった。人口増加が続くつくば市では、移動や医療、防災など重点分野を掲げ「インクルーシブテクノロジーによる誰一人取り残さない」社会の実現を目指しており、防災や危機管理への期待も強調された。

◆ 話題提供①「東日本大震災とその教訓から考える大規模災害対策」

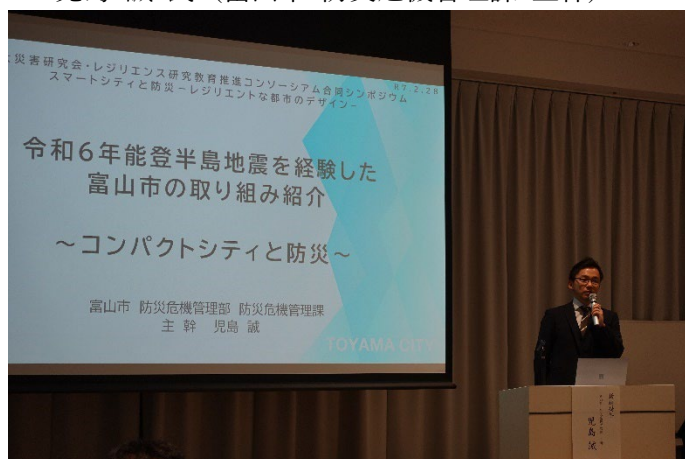
関谷 直也 氏（福島国際研究教育機構（F-REI） 客員上席研究員／東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 長・教授）



続いて、F-REI 客員上席研究員で東京大学教授の関谷直也氏が登壇。東日本大震災・原子力災害という大規模広域複合災害の経験から、次に起こりうる大規模災害対策について、「大規模災害時の心理」「大量の人の移動」「大量の廃棄物」「大量の紛争解決」「伝承」の視点から解説があった。今後も、防災や福島復興に資する長期的、継続的研究に取り組んでいくことが示された。

◆ 話題提供②「令和 6 年能登半島地震を経験した富山市の取り組み紹介 ～コンパクトシティと防災～」

児島 誠 氏（富山市 防災危機管理課 主幹）



続いて、富山市防災危機管理課の児島氏が登壇。基礎自治体の防災担当となり令和 6 年能登半島地震の対応を経験した行政職員の立場から話題提供があった。

富山市では、能登半島地震を契機に「公助」だけでは避難時の混乱を解決することが難しいことを再認識し、今後は「自助」や「共助」、産学官連携による取り組みを強化していく考えであることが強調された。

◆ パネルディスカッション「スマートシティと防災」

【登壇者】鈴木 健嗣 氏、関谷 直也 氏、児島 誠 氏、取出 新吾 氏（防災科学技術研究所 社会防災研究領域総合防災センター 副センター長）、木村 玲欧 氏（兵庫県立大学 教授）

【コーディネーター】遠藤 靖典 氏（筑波大学 教授）



パネルディスカッションでは、今後、大学・国研・企業・行政など多様な組織との連携による「スーパーサイエンスシティ」構想の深化やスマートシティの取り組みが、防災や危機管理面でどのような革新をもたらすのか、意見が交わされた。会場参加者からのコメントや質問も交え、時間が足りないほど盛況なディスカッションとなった。

◆ 閉会挨拶 木村 玲欧 氏（巨大災害研究会 会長／兵庫県立大学 教授）

最後に、巨大災害研究会の木村会長より閉会挨拶をいただき、本シンポジウムが締めくくられた。

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第30回幹事会議事要旨

- 1 日 時：令和7年2月10日（月）13時30分～14時00分
- 2 場 所：オンライン（Zoom）
- 3 出席者：寶（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島
オブザーバー：林（東京海上日動）
陪席者：小松原（セコム）、大貫（筑波大学）、増田（〃）、栗原（〃）、酒井（〃）、根本（〃）
(敬称略)

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

(1) 会長及び副会長の任期に関するコンソーシアム規約の改正について

遠藤副会長から、資料1に基づき、次のとおり規約を改正する旨の説明があり、承認された。

- ・会長が任期中に欠けた場合、後任会長及び副会長の任期を新たに開始する
- ・副会長が任期中に欠けた場合、後任副会長の任期を前任者の残任期間とする

(2) 令和7年度以降のコンソーシアム会長・副会長の体制について

遠藤副会長から、現会長・副会長の任期満了に伴う新会長・副会長の選出について説明があり、幹事会として運営委員会に次の者を推薦することが承認された。

- ・会長：寶 馨 氏（防災科研）
- ・副会長：甘利 康文 氏（セコム）、遠藤 靖典 氏（筑波大学）

(3) 令和7年度活動計画（案）について

遠藤副会長から、資料2に基づき説明があり、承認された。

【主たる活動】

- ・キャリアマッチングデー：6月5日開催決定
- ・単独シンポジウム・合同シンポジウム（各1回）：ハイブリッド開催

【会議】

- ・幹事会（4回）：オンライン開催
- ・総会（1回）：対面開催
- ・運営委員会（2回）：ハイブリッド開催

(4) 株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズの入会について

遠藤副会長から、資料3-1～2に基づき次の説明があり、承認された。

- ・次回の運営委員会で入会審議予定
- ・授業やインターンシップなどの具体的な連携内容について相談中

(5) コンソーシアムの日本ネットワークセキュリティ協会入会について

遠藤副会長から、資料 4 に基づき次の説明があり、承認された。

- ・特別会員として入会（令和 7 年 4 月 1 日入会予定）
- ・日本ネットワークセキュリティ協会会員に R2EC イベントの情報発信等が可能となる

(6) Security Days Spring 2025 の後援について

遠藤副会長から、資料 5 に基づき Security Days Spring 2025 より後援名義申請があった旨の説明があり、承認された。

(7) 巨大災害研究会・R2EC 合同シンポジウムの事前登録状況について

遠藤副会長から、資料 6 に基づき次の報告があった。

- ・事前登録者数 152 名（会場 58 名、オンライン 94 名）
- ・R2EC からの事前登録者数 10 名（会場 3 名、オンライン 7 名）※筑波大除く

(8) その他 P

特になし。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 令和 7 年度協働大学院教員及び非常勤講師について

岡島委員から、資料 7-1～7-2 に基づき、次の報告があった。

- ・協働大学院教員：電力中央研究所・上野准教授が 4 月 1 日着任予定（山本教授の後任）
- ・非常勤講師：全員継続予定

(2) その他

- ・学位プログラムオープンキャンパスの開催について（4 月 20 日）

岡島委員から、つくば市の科学技術週間に合わせ、4 月 20 日（日）に開催する旨の説明があり、学位取得に興味がある社員・職員への周知依頼があった。併せて、實会長から、4 月 19 日（土）に防災科研の一般公開が行われる旨の報告があった。

以上

令和7年度 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム 協働大学院教員一覧

整理 番号	ふりがな 氏名	所属先・職名	筑波大学職名 (任用年月日) (発令開始年月日)	大学院担当		
				新規継続の 別	研究指導 授業担当の別	担当科目(単位数)
1	あべ げんや 安部 原也	一般財団法人 日本自動車研究所 自動走行研究部 主任研究員	教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	ヒューマンファクター特論(1.0)ほか
2	うすだ ゆういちろう 臼田 裕一郎	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 社会防災研究領域 領域長 ※国立研究開発法人防災科学技術研究所 社会防災研究領域 総合防 災情報センター長及び防災情報研究部門長を兼務	教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	災害リスク・レジリエンス論(2.0)ほか
3	かとう かずひこ 加藤 和彦	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所 再生可能エネルギー研究センター 太陽光システムチーム 主任研究員	教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
4	さかい なおき 酒井 直樹	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 極端気象災害研究領域 水・土砂防災研究部門 副部門長 上席研究員	教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
5	たはら きよたか 田原 聖隆	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 IDEAラボ ラボ長	教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
6	ふじわら ひろゆき 藤原 広行	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 研究主監	教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (平成31年4月1日*)	継続	研究指導	災害リスク・レジリエンス論(2.0)ほか
7	おかべ こうへい 岡部 康平	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 機械システム安全研究グループ 上席研究員	准教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (平成31年4月1日**)	継続	研究指導	リスク・レジリエンス工学修士特別研究I(2.0)ほか
8	きたじま そう 北島 創	一般財団法人 日本自動車研究所 自動走行研究部 自動走行評価研究グループ グループ長	准教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (令和5年5月1日)	継続	研究指導	ヒューマンファクター特論(1.0)ほか
9	さとう としひさ 佐藤 稔久	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門 人間行動研究グループ (兼務 研究戦略企画部連携推進企画室) グループ付(兼務 連携主幹)	准教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (平成31年4月1日**)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
10	しまおか まさき 島岡 政基	セコム株式会社 IS研究所 デジタルプラットフォームディビジョン 主任研究員	准教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (平成31年4月1日**)	継続	研究指導	サイバーレジリエンス演習(1.0)ほか
11	ずし やすゆき 頭士 泰之	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員	准教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (令和4年3月1日)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか
12	うえの つよし 上野 剛	一般財団法人 電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 ENIC研究部門 上席研究員	准教授(協働大学院) (令和7年4月1日) (令和7年4月1日)	新規	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0)ほか

* 平成31年4月1日～ 客員教授、令和2年4月1日～ 教授(協働大学院))

** 平成31年4月1日～ 客員准教授、令和2年4月1日～ 准教授(協働大学院)

令和7年度 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム 非常勤講師一覧（レジリエンス研究教育推進コンソーシアム参画機関）

（令和7年2月10日現在）

整理 番号	ふりがな 氏 名	所属先・職名	筑波大学職名 （任命日）	大学院担当	
				新規 継続 の別	担当科目(単位数)[担当時間数(h)]
1	あまり やすふみ 甘利 康文	セコム株式会社 IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	リスクと安心の科学哲学特論(1.0) [15]
2	やぎゅう ともひこ 柳生 智彦	日本電気株式会社 セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	リスク・レジリエンス工学概論(1.0) [1.5]
3	アルザメリ フサム ムスリム ハントウーシュ ALZAMILI HUSAM MUSLIM HANTOOSH	一般財団法人 日本自動車研究所 自動走行研究部 自動走行評価研究グループ 研究員	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	ヒューマンファクター特論(1.0) [3]
4	あおやま ひさえ 青山 久枝	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 航空交通管理領域 研究員	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	リスク・レジリエンス工学概論(1.0) [1.5]
5	ふくしま さちこ 福島 幸子	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 特別研究主幹	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	リスク・レジリエンス工学概論(1.0) [1.5]
6	あおい しん 青井 真	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 巨大地変災害研究領域 研究領域長	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	災害リスク・レジリエンス論(2.0) [3]
7	いづか さとし 飯塚 聡	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 極端気象災害研究領域 水・土砂防災研究部門 上席研究員	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	災害リスク・レジリエンス論(2.0) [3]
8	ふじた えいすけ 藤田 英輔	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 巨大地変災害研究領域 副領域長	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	災害リスク・レジリエンス論(2.0) [3]
9	まえだ たかひろ 前田 宜浩	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 巨大地変災害研究領域 地震津波複合災害研究部門 主任研究員	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	災害リスク・レジリエンス論(2.0) [3]
10	やまぐち さとる 山口 悟	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センター 上席研究員	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	災害リスク・レジリエンス論(2.0) [3]
11	うたがわ まなぶ 歌川 学	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域 安全科学研究部門 持続可能システム評価研究グループ 主任研究員	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	環境・エネルギー・安全工学概論(2.0) [6]
12	ましる げんがく 真城 源学	一般財団法人 DRIジャパン 理事 （株式会社東急総合研究所 研究部 主任研究員）	非常勤講師 （令和7年4月1日）	継続	レジリエンス社会へ向けての事業継続管理(2.0)[30]